

【1】 次の問いに答えなさい。

- (1) 遺伝子の本体として確認されているものは？
- (2) EUの統一通貨の名称は？
- (3) 初陣 ——何と読む？
- (4) 江戸時代、幕府の命により、全国を旅して地図を作成した測量家は？
- (5) 玄人 ——何と読む？
- (6) 怪我の_____何と言う？
- (7) 今年9月11日投票日の選挙は何選挙？
- (8) 参政権のひとつで、解職請求権を何という？
- (9) Seeing is believing ——日本語のことわざでは何という？
- (10) 大韓民国の首都は？
- (11) 日本の内閣総理大臣は誰が任命するか？
- (12) 米国国防総省が中心となって計画・開発し、世界規模になった情報ネットワークの名称は？

【2】 次の(1)・(2)については、同じ意味のことわざを、
 (3)・(4)については、反対の意味のことわざを、(ア)～(サ)の中から選びなさい。

(1) 月とすっぽん [] (2) 弱り目にたたり目 []

(3) 鷹とんびが鷹たかを生む [] (4) 君子危うきに近寄らず []

- | | |
|--|----------------|
| (ア) 石橋をたたいて渡る | (イ) 絵に描いた餅 |
| (ウ) ちょうちんに釣り鐘 | (エ) 好きこそ物の上手なれ |
| (オ) 鬼に金棒 | (カ) 泣きっ面にはち |
| (キ) 瓜 <small>うり</small> の蔓 <small>つる</small> に茄子 <small>なすび</small> はならぬ | (ク) 亀の甲より年の功 |
| (ケ) 石の上にも三年 | (コ) 馬の耳に念仏 |
| (サ) 虎穴に入らずんば虎子を得ず | |

【3】 次の文章の()に「始」か「初」のどちらか適当な字を入れなさい。

年の()めの8日、始業式の後に、クラスで三学期()めの会をしました。
 ()めに先生があいさつをし、司会の子が「()めます。」と言いました。
 するとみんなは、口々に冬休みの思い出を話し()めました。

【4】 次の各組の名詞・代名詞のうちで、他と種類の異なるものを選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|------------|---------|----------|----------|-----|
| ① (ア) 鉛筆 | (イ) 飛行機 | (ウ) 中国 | (エ) テレビ | [] |
| ② (ア) アメリカ | (イ) びわ湖 | (ウ) 富士山 | (エ) 銀行 | [] |
| ③ (ア) いくつ | (イ) 十時 | (ウ) 正三角形 | (エ) 何匹 | [] |
| ④ (ア) それ | (イ) あれ | (ウ) どなた | (エ) どれ | [] |
| ⑤ (ア) ぼく | (イ) 兄弟 | (ウ) 母 | (エ) 両親 | [] |
| ⑥ (ア) 日本 | (イ) イラン | (ウ) ステレオ | (エ) エジソン | [] |

【5】次の文章を読んで設問に答えなさい。

小豆島の小高い丘に作家、壺井栄の文学碑を訪ねたことがある。故人が生前、色紙に好んで書いた言葉が刻まれていた。「桃栗三年 柿八年 柚^{ゆず}の大馬鹿 十八年」◆桃やクリは芽生えてから三年、カキは八年で実がなる。それに比べてユズの成長は遅く、容易に実をつけない。時に周囲から愚か者であるかのように見下される、と、そんな意味のことわざらしい◆長い歳月を辛抱して実を結ぶユズに、下積みに耐える人の愚直さを重ね、栄はいとおしさを覚えたのだという。「二十四の瞳」の大石先生が教え子たちに向けたようなまなざしでユズを見つめていたのだろう◆最近、目を引いたニュースに「将来への夢」と題する小学生調査の結果がある。「がんばったら、なれると思いますか」の問いにうなずいた子供は、「大会社の社長」17%、「優れた大学教授」16%、「世界的な芸術家」21%…◆米・韓・台との比較で最低という。名をなすだけが人生ではないから嘆く必要はないとしても、「どうせ自分は桃やクリではないから」とでも言いたげな、このあきらめのよさ、見切りの早さはどうだろう◆せわしない時の流れに世の中がつい、栄のまなざしを忘れがちなせいでもあるのか。その実が金色に熟れる季節、ちょっと気になる。

子の置きし柚子^{ゆず}に灯のつく机かな（飴山実）

<読売新聞「編集手帳」より>

問1：「桃やクリ」は何のたとえか？

問2：「栄のまなざしを忘れがち」とは、どういう傾向のことか？

問3：筆者が「ちょっと気になる」のは何か？

【6】次の文章を読んで設問に答えなさい。(司馬遼太郎著「草原の記」から抜粋したものです)

長城の内側が——中国のことである——農耕文化であったために、文字と文章が発達した。

その内側である漢民族帝国では、外側である北方について数多く書かれてきた。当然ながらその立場(農耕という立場)に拠って書かれ、北方はつねに醜悪であり、侵略者として印象づけられてきた。いわば、書き放題だった。

以下の想像は、歴世の中国人に申しわけないが、むしろしばしば農民のほうが草原への侵略者だったのではないか。かれらは人口増加のあげく、つねに処女地をもとめ、匈奴の地である草原に蹠躑い出て、鋤をうちこむ。

遊牧民は、草原の土を掘ることを極度にいやがった。

草原は、動物のように生きた皮でおおわれている。その皮は薄く、しかも舗装されたように硬く、それによって、表土の下の土壌が風に吹き飛ばすことから守られてきた。

さらには草が、根を網のように張ることによって表土をひきしめていたのである。

農民にはそういう頓着はなく、鋤で一撃してその表土を粉碎してしまう。そのあと烈日が粉のようになった土を煎り、冬の風がそれを吹きとばして、ついには岩骨まで出るにいたる。ひとたび表土が吹き飛ばされれば、二度と草原は戻らないのである。

農民が土を耕すことは、天のよろこぶところとされる。

遊牧民の天は、それを悪としてきた。

「掘るな」

ということを匈奴や、その後のモンゴル人たちはおそらく言いつづけたはずであった。

が、農業帝国の記録のなかでかれらの言い分が書かれたことはない。

問1:「いわば、書き放題だった。」とは、どのような背景によってそうなったのか?

問2:「歴世の中国人に申しわけないが、」とは、何を「申しわけない」と言っているのか?

問3:漢民族と北方民族との対立は、何が原因だと思うか?